標　　題：P203. Inflammatory bowel disease and compliance with the Mediterranean diet
P203. 炎症性腸疾患と地中海食事の順守

---

著　　者：V. Teixeira, et al. （ポルトガル Hospital Beatriz Ângelo,
Serviço de Dietética e Nutrição）

---

掲　　載：European Crohn's and Colitis Organisation
Poster presentations: Clinical: Diagnosis & outcome (2014)
〔ポスター発表：臨床：診断と結果（2014）〕

---

要　　旨：

背　　景：　高含量の n-3 系脂肪酸、抗酸化物および繊維、および低含量の糖類を含有する食事によって慢性的な炎症は減るであろうと、示唆された。

地中海食事(MD)は前者の全ての栄養素を構成するので、それは炎症性腸疾患(IBD)の患者に有効との仮説が立てられている。

我々の研究の目的は、地中海食事に関する炎症性腸疾患の順守を評価して、疾患活動性に対するその影響を評価することであった。

方　　法：　炎症性腸疾患の患者合計 59 人[クローン病(CD)の 41 人および潰瘍性結腸炎(UC)の 18 人]がこの横断的研究に参加した。

臨床データおよび身体計測値を記録した。

半定量食品頻度アンケートを用いて食事摂取を評価した。

食品の栄養摂取への変換を、ソフトウエア Food Processor Plus (ESHA Research, Salem, Oregon)で遂行した。

地中海食事の順守を、「地中海アカデミー指数(MAI)」を用いて解析した、それは地中海食事を特徴づける食品の摂取と地中海食事と一致しない他の食品の摂取との比率から計算する。

MAI は、推計栄養摂取量と「健康的な参照国定地中海食事」との間の比較を可能とする。

疾患活動性を、CD は Harvey–Bradshaw Index (HBI)そして UC では Cinical Activity Index (CAI)を用いて測定した。

データ解析を SPSS 20 (IBM SPSS statistics)で実施した。

結　　果：　研究した母集団の 37.3%(n=22)は過体重、10.2%(n=6)は肥満、47.5%(n=28)は正常体重で、そして 5%(n=3)は低い BMI であった。

昨年中に再発のない患者は、赤身肉(40.57±20.3 g/日 対 26.4±20.7 g/日; p＝0.022)、缶詰食品(12.9±12.9 g/日 対 8.1±11.9 g/日; p＝0.022)および保存肉(5.6±4.2 g/日 対 4.3±6.8 g/日, p＝0.063)の高い摂取を示した。

また寛解期の患者は脱脂乳(6.6±40.3mL 対 55.1±151.2mL; p＝0.082)の摂取

が低く、缶詰食品(12.4±13.2 g/日 対 5.7±9.9 g/日; p＝0.007)、砂糖(18.1±16.3 g/日 対 11.0±13.4 g/日; p＝0.098)およびコーヒー(78.3±57.5 対 51.19±60.9; p＝0.052)の摂取が高かった。

我々の母集団の 14%(n=8)だけが地中海食事の順守者(MAI≧4.6)と分類され、平均 MAI は 2.46±5.21 であった。

その上、MAI と HBI(r＝0.242; p＝0.304)または CAI (r＝0.201; p＝0.44)との間に相関が見られなかった。

結　　論：　炎症性腸疾患がある研究母集団は、過体重／肥満の有病率が高く、少数の患者だけが地中海食事を順守した。

MAI と疾患活動性との間に関連は見られなかった。

寛解の維持または再発頻度に関する地中海食事の役割の調査を目的とする将来の国際的な栄養研究が必要である。